

2月19日3時より地球研でサラワク多点調査についての打ち合わせを行いました。(参加者 山村、市川、中静、市岡、酒井、山下、岸本、小泉)以下、報告します。添付したのは当日の配付資料ですが、改訂したものを再度お送りする予定です。

#### 1. 多点調査の目的 (酒井)

多点調査の目的 土地利用変化に関わる要因を統計的に分析を行い、土地変化のモデルのパラメータを得る。例えば

林産物をよく利用する→森林を重要だと考える→森林の消失は起こりにくい

これは、町からのアクセス、教育、分化、習慣、などに関連しているだろう。また、森林利用の仕方は、

- ・生物資源の状況
- ・村の経済・血縁・情報ネットワークとも関係している

と予想される。このような関係を明確に示したい。

#### 2. スケジュールの説明

2008年3月 バラム川上流での試し調査

2008年度 すでに調査地になっている場所での調査・解析

2009年度 追加調査・解析

#### 3. 多点調査アンケートの提案 (市川、添付)

#### 4. 生物調査の提案 (市岡・岸本、添付)

#### \* 議論の要点

アンケートについて

1) 各戸への設問と村長への設問が重複している。アンケートを簡単にしようとしたあまり、制度や人間関係(共同体のきずなの強さとか)に関連した項目が少ない。村長への質問と各戸への質問の仕分けを考える。村長は時間をかけて

ゆっくり聞く。各戸には、できるだけ選択式にして単純な設問にする。

## 2) 時間スケール

原案では、10年前までしかさかのぼっていないが、変化は重要な情報なので、使えるかわからないけれど、(質問の数を減らしても) 10年前、20年前の2つの時間断面を聞く。生物の5年前は省く。

## 3) 村長への設問として考えられることの追加

所有制度 (何か具体的な設問を考える)

相続制度 (何か具体的な設問を考える)

共同体の強さ (村の物理的形態? ロングハウスか、独立戸か)

大きな開発の資金源

共同作業の集団の大きさ、種類

手伝いは労働でやりとりするか、賃金を払うか

儀礼の頻度

互助制度 (ロングハウス周りの草刈り)

政治ネットワーク

議員の輩出、関係、政党との関係、官僚

周辺村との関係

どんな問題がおきているか (おきたか)

問題解決法

土地利用はおおざっぱでよい

意志決定システム (共同体 VS 中央)

会合の有無

村長の選び方

伐採などによる収入があったときの配分

プランテーションなどの話があったときどのように決定するか

ルール

魚取り (方法の制約・ペナルティーの有無)

狩猟 (とっては行けない時期、種類、場所)

## 4) 戸別への設問として考えられることの追加

世帯レベルの問題点（ほしいもの）

医療関係：医療設備、出産場所、薬草使用

アンケートの不安材料

獣肉についての聞き取り（法に触れることを聞き取り、公表できるか）

本当のことをいってもらえるか、できるだけ答えられる設問にする

#### 5) 生物

聞き取り対象の生物を栄養段階、サイズの観点から絞る

外注だけでなく害獣を加える

2, 3は戸別調査と統合

蝶は調査者を訓練する

#### 6) 同位体用サンプル（古い物があればすばらしい）

人間（髪の毛、爪、骨）

毛皮、骨があれば少しもらう

ツムギアリ

ネズミ

猛禽